

## 会長の時間 ●富田会長

本日は安行ガバナーをお迎えして、クラブの紹介を兼ねて、龍野クラブの誕生について触れたいと思います。

クラブの記念誌によれば、龍野クラブは、1957年に姫路商工会議所の龍田会頭から龍野商工会議所の横山専務理事を通して、当時の片岡勸次郎会頭にロータリーの話があり、片岡会頭から浅井博初代会長に「君ひとつ中心になってやってくれないか」と話があったのが始まりとされています。

そして、浅井博、矢嶋福男、前野三郎、横山良一の4名がキーマンとなり、姫路商工会議所の斎木亀治郎特別代表の指導の下、龍野クラブは1959年4月1日、26人のチャーターメンバーで設立されました。初代会長は、「当時はロータリーのことも皆良く理解せず、特に設立に当たって、一業種一人という職業分類が難しかった為に設立が難航した」が、ガバナー事務所が大目に見たと述べられています。

設立当初から3年間は、実務・運営面で横山専務理事が幹事として優等生の姫路クラブの指導の下、手腕を発揮されて、国旗掲揚運動や時間励行運動等、徐々にロータリーらしい雰囲気醸し出された様です。

翌、1960年5月8日、ヒガシマルホールや龍野公園で伝説的なチャーターナイトが開催され、醤油や素麺関係者を含め、約500人が参加された様ですが、大雨が続く中、この日は奇跡的に快晴であったと伝えられています。

浅井初代会長の「親睦こそ我がクラブ」というモットーについて、ご本人から「私はロータリーのことは良く知りませんでした。まずやっぱり仲ようしなかったら、こんなクラブというものは運営できないことは分かり切った話、という非常にシンプルな発想です。まあ、これが良かったと思います。」とコメントされています。また、初代会長は、ロータリーの奉仕の理想実現への活動の根幹として、会員相互の親睦と対外的にエリート意識を慎むことの2点を強調されていますが、この2点とも当時の会員が十分に認識し、これを基盤に地域社会や世界平和の為の活動を誓っていると述べられています。

2代目浅井弥七郎会長は「片岡勸次郎氏、小林善太郎さん、小西義一さんから、難しいことはええんやという良いムードが出され、それがクラブのムードとか風潮を定着させたのではないかと思います。皆さんのご人格というかお人柄のしかるべきところだと思います。理屈ではなくそれが自然にできていたからね。」と当初の雰囲気を伝えられています。

また、20周年の座談会では設立時の思い出を振り返る一方で、最近、家族例会での家族参加が少ないとか、龍野クラブの今後について、ロータリー精神に基づく奉仕活動と親睦をもっとやるべきだが、ライオンズと同じであるべきではないとか、ロータリーは職業的にも年齢的にも広い友達を得ることができ、人生を豊かにする立派な人と交際できるとか、最近、老化傾向にあるのでこの伝統を受け継ぐ為に活力ある若い会員を増やしていくべきとか意見が出されていましたが、まるで現在のロータリーの思いと重なる様に思いました。

そして、来年、龍野クラブは先達の思いを引き継ぎながら、創立65周年を迎えます。